



令和4年度 第5号  
常磐野小学校 校長室だより  
令和4年9月1日発行 文責 清川 秀一



## 「2学期がスタートしました」

夏休みが終わり、2学期がスタートしました。久しぶりに制限のない夏休みでしたが、第7波については収束が見えないままでしたので、様々な面で気を揉まれたのではないかと推察いたします。

夏休みの間に、ときわぎネイチャーランドの川が復活しました。平成16年に完成し子どもたちの憩いの場となっていますが、750mもあるビオトープの維持は学校だけでは難しく、学校運営協議会や親路の会のお世話になっていたところです。川はポンプで水をくみ上げ、田んぼ・湿地・川を循環させる仕組みになっているのですが、ポンプを新しくすることでネイチャーランドの清流がよみがえりました。これだけのビオトープが学校にあるのは大変珍しく貴重です。暑さもまだもう少し続きそうですので、児童に清涼感を感じてもらえたうれしいです。



さて、始業式では校長の話として「鉛筆の正しい持ち方」をとりあげました。児童が鉛筆を初めて持つのはおそらく就学前かと思いますが、おそらくその時には、その子の感覚で持ちやすい方法で書いていたのではないかと思います。小学校に上がってもいったん身についた癖を直せないと、そのまま大きくなってしまいます。かくいう私もその一人であります。話の中で、自分自身が自己流の持ち方から、正しい持ち方へ直したことにより、字を書くことが苦にならなくなつたことを児童に伝え、「2週間でなおったよ」と経験談を話しました。

はじめは違和感が大きいのですが、正しく持つことで、長時間書くことができるようになったことは間違いないありません。手も痛くなりにくいので、集中力も続きます。字の形も整えやすくなつたという実感があるので、児童には「誰にでもぜつたいできるから、しばらく我慢して練習しよう」と呼びかけています。

ご家庭においても宿題などをしているときに、声をかけていただけだと、早く身につくのではないかと思います。

ご協力をよろしくお願ひいたします。



正しい持ち方は鉛筆を3本の指先で持ち、人さし指に沿わせますが、写真では親指の先が鉛筆を支えず、鉛筆が人差し指と親指の間に入り、親指の付け根で挟んでいるので、手が痛くなりやすいです。